

商店街への支援について

福岡市内には現在、130を超える商店街組織がありますが、「新型コロナウイルス感染症」の影響で、商店街を訪れる方が激減し厳しい状況です。地域にとって重要な役割を担っている商店街への支援を質問します。

質問（堤田寛）

●基本的な商店街支援策の考え方は。

【回答：経営観光文化局長】

○商店街支援の考え方

▼新たな取組みにやる気をもってチャレンジする「がんばる商店街」を重点的に支援。

▼商店街の規模やタイプ、課題に応じた選択可能な施策による支援を実施。

質問（堤田寛）

●現在のコロナ禍において、福岡市の支援策は。

【回答：経営観光文化局長】

○新型コロナウイルス感染症対策支援

地域を支える商店街支援、商店街プレミアム付商品券、次世代商店街支援事業等

堤田寛▼福岡市の各支援策を活用し、安心して買

い物ができる環境整備や、新しい生活様式にむけた新たなチャレンジや、中止したイベントの再開やコロナ禍でも開催できるイベントの検討など地域の元気を取り戻そうとしています。地域商店街は「身近な買物の場」の維持や、「地域の活性化」のために懸命に頑張っています。ワクチン接種が順調に進み人の流れが商店街に戻ることを期待します。

質問（堤田寛）

●商店街の今の状況や、商店街からの声にはどのようなものがあるか。

【回答：経営観光文化局長】

○令和3年1月アンケート調査

ほとんどの商店街で来街者が減少、加盟店の売上が減少したと回答。

○令和3年6月から実施中。商店街実態調査）人通りは戻ってきたが、コロナ下前よりは少ない、イベントを開催したいが、まだ実施は難しいといった声。

質問（堤田寛）

●厳しい状況の中でこの難局を乗り越えるためにどんな事例があるか。

【回答：経営観光文化局長】

○新しい

商店街組織の設立

▼令和2年度以降、

6商店街増。

○商品券新規発行団体

▼新規発行団体

6団体（12商店街）が予定。

○商品券発行による

会員増

▼これまで発行した

商店街で会員店舗

が増えたと

いった声も聞く。



イメージ

コロナ禍の子どものスポーツ振興について

昨今のコロナ感染事情によりスポーツ大会の延期や中止に伴い、青少年へのスポーツ支援を福岡市に対して、質問および要望をしました。（下記は議会質問より抜粋）

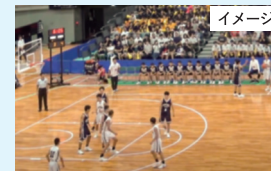
- ①代替スポーツ大会開催支援補助は励み。
▶運動習慣のきっかけづくりや場の確保が必要。
- ②スポーツに親しむきっかけは習慣を作るため重要。
▶事業者やスポーツ団体等との連携を促進し指導者を確保。
- ③場を確保しスポーツ振興や市民が親しむことのできる場へ。
▶世界水泳選手権2022福岡大会（順延）は関心を高め親しむ契機。

子どものスポーツの推進についての福岡市の回答

- スポーツ振興には、きっかけづくりや場の確保が重要。
- スポーツ振興を「する」「みる」「支える」の視点で。



イメージ



イメージ

堤田寛▼私の地元、新天町商店街は、創業75年を迎える商店街ですが、非常に苦勞しているとの声も聞きます。建物の老朽化も進行しており、新時代に向けサポートをお願いします。福岡市が、元気を取り戻すためには、地域の商店街の活性化が必要です。しばらくは新型コロナウイルス感染症と向き合う生活が求められます。商店街でも、感染症対策を講じながらにぎわい創出にむけ、試行錯誤しながら取組みを続けていくことになりそうです。相談があれば、これからも福岡市の支援またはサポートをしていただければと思います。

かん動レポート
2022年春号

日ごとに暖かさを感じられるようになりましたが、コロナ禍におきましてご苦勞も多いかと拝察いたします。日頃よりお力添えありがとうございました。また、皆様には、昨年10月の衆議院選挙では、自民党福岡2区鬼木誠選挙活動のご協力を頂き、ありがとうございました。コロナ終焉がまだ見えない中、これからも福岡市に対しより一層の感染対策や経済支援対策を提案して参ります。今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

福岡市議会議員「中央区」／自由民主党 堤田 寛



保育園の皆様より
応援の似顔絵を頂きました!!
これからも一生懸命頑張ります!!
ありがとうございます!!



いつもみんなの応援を
みまもってくださりあり
がとうございます。

コロナ後の
未来を描く

アフターコロナへむけて、今動く時。

新型コロナウイルス感染症の拡大は衰えず、2022年1月よりはじまった、オミクロン株中心の第6波の感染者は、2月に入り過去最高を記録しています。これに伴い福岡市でも1月下旬から「まん延防止等重点措置」が適用されました。

しかし、福岡市は、重症患者数が最小限に抑えられています。これは福岡市のワクチン接種率政令指定都市の平均を大きく超える接種率（1回接種約86%、2回接種約85%）で、市民の皆様のご理解とご協力のお

かげだと言えます。集団接種とかかりつけの病院での接種という2つの選択が出来たことも接種率のアップにつながりました。

また、福岡市では3回目の接種実施に向けて、接種通知など着々と準備を進めています。

今も懸命に尽力されている医療従事者を守る、医療を守ることが大事です。また、市民の生活を守るため、エッセンシャルワーカーの方々を守ることも同時に、福岡市へはたらきかけていきます。

そしてこれからは、感染防止対策や経済支援対策を懸命に行いながらも、ワクチンや治療薬の光も見え始めるなか、「コロナ後の未来」を見据えた私たちの生活基盤の立て直しが重要な課題となってきます。

コロナの影響で大ダメージを受けた経済を再活性化させるための対策・支援を考える時期に入ってきました。国の補正予算や特例措置などの対策と共に福岡市独自の支援対策も引き続き検討しなければなりません。

コロナ後の未来に備え、これからも福岡市に対し必要な施策を提言し続けてまいります。

福岡市の状況

※福岡市役所HPより
※2月6日現在の数値です。

福岡市ワクチン接種実績報告

	対象者数	1回目	2回目
全年代	1,394,962人	1,197,610人 85.9%	1,181,565人 84.7%
高齢者	343,203人	329,100人 95.9%	327,795人 95.5%

福岡市議会議員
自由民主党

中央区

つつみだ 寛



堤田 寛
事務所
〒810-0073
福岡市中央区舞鶴1丁目3-1
TEL092-753-9324 FAX092-753-9159
http://www.kan-tsutsumida.jp



市議会活動報告

議会質問 2021年9月・12月

※議会質問記載内容は要約しております。

学校給食における地産地消の推進と食材の安定供給について

学校給食は、教育活動へと変化してきました。今後も実施体制整備が求められ、食材調達における地産地消の推進は、学校給食の重要な役割となります。

質問（堤田寛）

●学校給食における地産地消の考え方、食材の安定供給の取組みについて。

【回答：教育長】

○市内産、県内産、九州産、国内産の順で調達。
○福岡市学校給食公社が、量の確保や品質や価格面から安定供給できるものを選定。
○パン、米飯、牛乳、野菜、食肉、豆腐製品など、納入業者で組合を組織し不測の事態へ対応。
○米や牛乳は、福岡県農林水産部と連携、年間使用量を確保できる体制に。

質問（堤田寛）

●使用する生鮮食品の主な産地は。

コロナ下における子育て支援の充実について

コロナ禍の中で、妊娠、出産、子育てへの不安を募らせている方が多いと思います。

質問（堤田寛）

●出産前後の妊産婦や子育て家庭の不安や負担を軽減する取組みは。

【回答：子ども未来局長】

○妊娠届出時に妊婦面談、支援必要時は医療機関への情報提供、保健師家庭訪問を支援。
○妊婦健康診査14回分負担、支援必要時、保健福祉センターで関係機関と連携し支援。
○出産後、乳児家庭全戸訪問や乳幼児健診、産後ケア・ヘルパー派遣事業を実施。

質問（堤田寛）

●コロナ禍で取り組んでいる出産前後の支援策は。

【回答：子ども未来局長】

○令和2年10月より出産前のPCR検査費用を助成。
○令和3年1月より産科医療機関で健診、関係機関が連携し産婦健康診査事業を実施。

質問（堤田寛）

●今年開始された産婦健康診査事業の具体的な内容と関係機関の連携は。

【回答：子ども未来局長】

○産後2週間頃と1か月頃に産科医療機関で健

【回答：教育長】

○野菜は、市内産、県内産、九州産が中心、食肉は、豚肉、鶏肉は主に九州産、牛肉は主に北海道。
○市内、県内、九州産食材が確保できない場合は、北海道産の食材も使用。

質問（堤田寛）

●市内産の主要野菜、魚の過去の利用状況や加工農産物はどのようなものがあるのか。

【回答：教育長】

○主要野菜と魚の利用状況

年代	品目	主要野菜	魚※
平成30年度		27.2 %	3 品目
令和元年度		30.0 %	4 品目
令和2年度		31.4 %	5 品目

※魚は平成28年度より提供開始

○市内産農産物加工品

- 小松菜コロッケ
- キャベツ入りメンチカツ
- 春菊入りソーセージ
- 甘夏みかんのゼリーやマーマレード
- あまおうのタルトやクレープなど



イメージ

堤田寛▼牛肉使用の献立は子どもたちに人気です。献立の充実のために提供して頂きたい食材の一つです。

質問（堤田寛）

●牛肉が主に北海道産であることと理由と令和2年度の使用について。

【回答：教育長】

○品質や価格面を考慮。乳用種を食肉用に肥育した肉の流通量が少なく北海道産を使用。
○令和2年度使用回数は、小学校9回、中学校10回。

診し「産後うつ」予防を支援。

○医療機関の報告で、産後ケア事業者や精神科・小児科医療機関など機関連携を支援。

質問（堤田寛）

●乳幼児健診の役割とコロナ禍の健診の実施状況は。

【回答：子ども未来局長】

○「医学的な健康支援」、「育児環境の支援」、「児童虐待の予防」という役割。
○感染対策に配慮し集団健診を実施、健診の一部は個別健診に切り替え。

堤田寛▼「出産前後子育て支援事業（ペリネイタルビジット※）」は、早い時期に「かかりつけ小児科医」が見つかる有意義な事業です。

※ペリネイタルビジットとは…

赤ちゃんが病気になるって慌てて小児科を探すのではなく、出産前もしくは産後すぐの早い段階で、かかりつけの小児科医を作っておこうという制度です。



イメージ

質問（堤田寛）

●ペリネイタルビジットの周知について。

質問（堤田寛）

●安定供給と地産地消推進の観点で、九州産の牛肉使用の体制にすべきでは。

【回答：教育長】

○令和3年度はコロナの影響で、牛肉の確保ができない時期があった。

○市場状況を踏まえ、乳用種に限らず、品質や価格面に留意し、九州産の交雑種使用を進める。

質問（堤田寛）

●様々な食経験をさせるため、学校給食に、鶏、豚、牛をバランスよく取り入れるべきでは。

【回答：教育長】

○心身ともに健やかに成長できるよう、牛肉、鶏、豚をバランスよく取り入れ、献立を工夫する。

堤田寛▼学校給食は、食に関する指導を効果的に進める教材として重要な役割を担っています。

質問（堤田寛）

●学校給食の取組みが、生きる力を育むことに繋がります。学校給食の更なる充実へ教育長の所見は。

【回答：教育長】

○食は命の源であり、食育は生きる上の基本。
○地元食材を取り入れ、郷土への関心を高め、生産者や自然の恩恵への感謝の心を育む。
○食材の確保や食品の適正な組み合わせで、多くの食材に触れ、食に関する知識を習得。
○地産地消の推進と食材の安定供給体制の整備、安全、安心の給食を提供し学校食育を推進。



イメージ

【回答：子ども未来局長】

○母子健康手帳で事業紹介、手帳交付時にチラシを配布。
○福岡市のホームページからペリネイタルビジットの紹介ページへのリンク。

堤田寛▼産婦健康診査事業や乳幼児健診事業の重要な役割、ペリネイタルビジットの周知については理解しました。引き続き、行政と関係機関の連携で事業充実をお願いします。

質問（堤田寛）

- ①ペリネイタルビジットは、さらなる支援をいただけるよう改めて要望します。（要望）令和2年度の全国出生数は統計史上最も少ない84万人余（昨年▲2.8%）、妊娠届出数も87万2千余（▲4.8%）。晩婚化や晩産化が進展、新型コロナウイルスの影響で少子化が深刻化しています。
- ②自治体としての少子化対策にしっかり取り組んでいただくよう要望します。（要望）保護者の方が不安や負担感を抱えず、笑顔で育児ができるよう子育て家庭に寄り添う支援への取り組みが重要です。
- ③コロナ禍に、出産を望む方が安心して生み育てることができる環境づくりへの所見を。

【回答：子ども未来局長】

○地域や関係機関と行政が連携し、社会全体で子育て家庭を見守り支援することが重要。
○健診や保健指導など機会を捉え状況を把握、関係機関と連携して適切な支援を実施。
○妊産婦や子育て家庭の不安・負担を軽減、安心して出産・育児ができる、出産前後から子育て期迄の切れ目ない支援の取り組み。